

# 史跡 おと 御土居



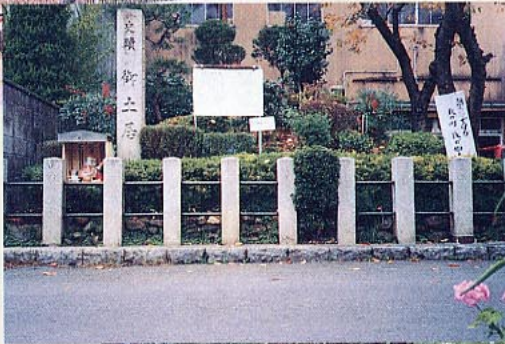
京都市文化観光局

平野御土居



### ◀鷹ヶ峯御土居

昭和56年(1981)史跡公園として整備、地域住民の憩いの場となっている。



民家に囲まれ僅かに面影を残す紫野御土居▶



紙屋川沿いに北野天満宮境内を南北に走る北野御土居 ▶



神社として信仰の対象になったり、▲西ノ京御土居寺の墓地となっているところもある。

▼廬山寺御土居



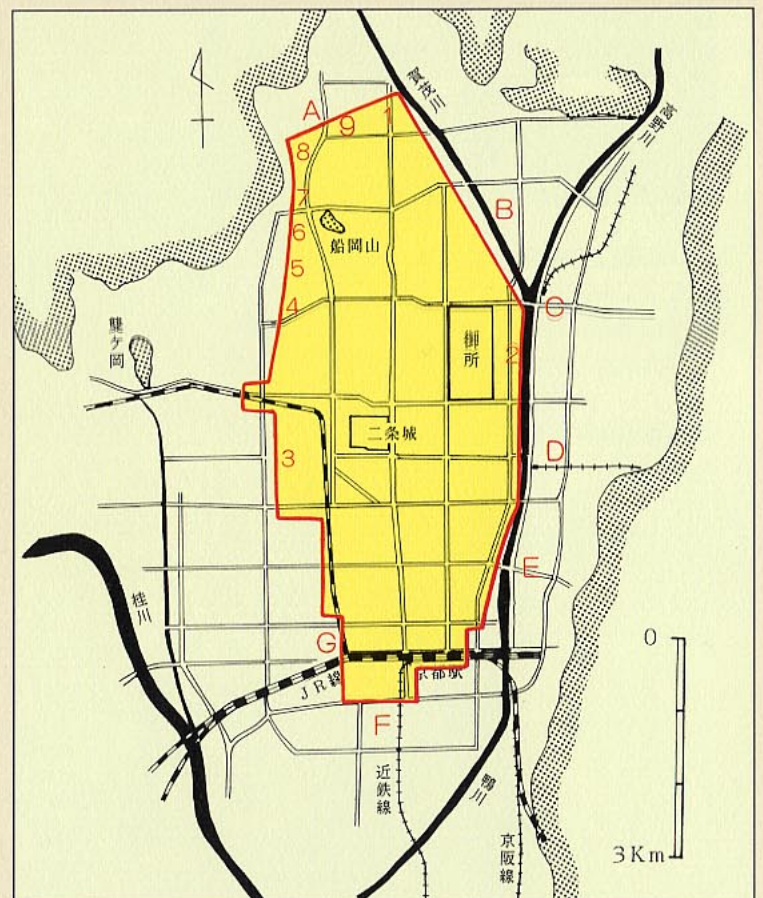
いつ頃と壊されたのか御土居は跡形もないが地名として今も生きている。  
土手町通(上京区、下京区)  
切り通し(上京区)開町(北区)



▲中京区 南区▶

## 史跡御土居、京の七口の位置図

- |       |               |       |
|-------|---------------|-------|
| 1 紫竹  | 北区紫竹上長目町・堀川町  | A 長坂口 |
| 2 廬山寺 | 上京区寺町広小路の北之辺町 | B 鞍馬口 |
| 3 西ノ京 | 中京区西ノ京原町      | C 大原口 |
| 4 北野  | 上京区馬喰町        | D 栗田口 |
| 5 平野  | 北区平野鳥居前町      | E 伏見口 |
| 6 紫野  | 北区紫野西土居町      | F 鳥羽口 |
| 7 鷹ヶ峯 | 北区旧土居町3       | G 丹波口 |
| 8 鷹ヶ峯 | 北区旧土居町2       |       |
| 9 大宮  | 北区大宮土居町       |       |



# 史跡 御土居

御土居は天下統一を成し遂げた豊臣秀吉が、長い戦乱で荒れ果てた京都の都市改造の一環として外敵の来襲に備える防壁と、鴨川の氾濫から市街地を守る堤防として、天正19年(1591)に多くの経費と労力を費やして築いた土塁です。

台形の土塁と堀(堀の一部は川、池、沼を利用)からなり、その延長は22.5キロメートルに及び、東は鴨川、北は鷹ヶ峯、西は紙屋川、南は九条あたりに沿って築かれました。土塁の内側を洛中、外側を洛外と呼び、要所にはいわゆる七口を設け、洛外との出入口としました。鞍馬口、丹波口などの地名はその名残です。

江戸時代になると天下太平の世が続き、外敵の脅威もなく御土居は次第に無用の存在となり、また市街地が洛外に広がるにつれ堤防の役割を果たしていたものなどを除いて次々と取り壊され、北辺を中心に僅かに名残りをとどめるのみとなりました。

昭和5年(1930)、市内に残る御土居のうち8箇所が、京都の沿革を知るうえに、また、広く我が国における都市の発達をたどる重要な遺跡として「史跡」に指定、昭和40年(1965)にさらに1箇所(北野天満宮境内)が追加され、現在9箇所が指定地となっています。



▲ 紫竹御土居

鴨川の氾濫から市街地を守る重要な地点であったことが室戸台風(昭和9年)で証明された。京都の自然と地形を生かした御土居の造成であったことがうかがえる。

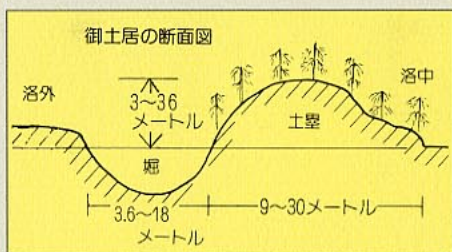
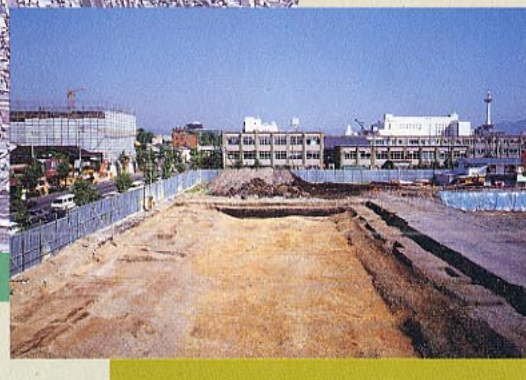


▲大正時代  
紫竹御土居  
上加茂御壱橋下流  
西岸より南方を望む。▼現在



加茂川中学校前付近から  
北方を望む。後方は北山  
(大正時代)

九条油小路附近の  
発掘現場  
御土居の堀跡を発見。  
この付近が御土居南限  
の一部であったことが  
発掘調査で確認された。



▲ 大正時代の平野御土居

御土居には竹木が植えられた。根が土を固め、繁茂する枝葉が要害としての御土居の役割を倍加することを狙ったものである。

▼ 現在の大宮御土居



文化財の愛護に努めましょう。



▲ 京の七口の一つ  
粟田口  
粟田小学校校門前

「是より洛中荷馬口付のもの乗るべからず」—この地点から市中になるので荷馬(荷をつけた馬)からおりてくつわをとること—道標は何時頃のものかは分らないが、御土居の出入口となる七口、とりわけ荷馬の往来の多い所に立てられていたと思われる。

室町小学校校門前 ▼

